

* 関 勝 則 「時代を映した横浜の歌」 探訪。

誕生から108年、市民に歌い継がれる「横浜市歌」

幕末期、野毛山から見た英仏駐屯軍の調練を歌ったという「野毛節」をはじめ、横浜ほどたくさんの歌に恵まれた街は他にないと言えます。今号より、時代とともに生まれた横浜の歌を歴史と振り返りながら探訪してまいります。

「横浜市歌」は、1909(明治42)年7月に、新港埠頭で行われた「横浜開港五十年記念祝賀会式典」に合わせて、市歌を計画し作られた市民の歌で、横浜市立の小・中学校に通学していた市民の方々には心のふるさととして歌い継がれていると思います。1889(明治22)年に市制が施行された横浜市は、現在の中区、西区を中心に、南区、神奈川区の一部や中区と磯子区にまたがる根岸村など約25km²程度の面積でした。

そして区制が施行されたのは1927(昭和2)年。この時に誕生した磯子区、中区、神奈川区、保土ヶ谷区、鶴見区は今年10月に区制90周年を迎えます。

当時の三橋信方横浜市長が「横浜市歌」の作曲を依頼したのは、明治・大正の文豪の森鷗外と、東京音楽学校(現・東京藝術大学)の助教授だった南能衛みなみよしえ)でした。

鷗外に詞を依頼した経緯については定かではありませんが、元々市長と鷗外に接点があったという説や、音楽学校を経由して依頼したという説があります。

当時、鷗外が忙しいという理由で、先に南が作曲しその旋律に合わせて鷗外が詞を付けるという方法がとられました。この方法は中国から伝わった曲に詞をはめる「填詞てんし」と呼んでいたそうです。近年1970年代以降に主流となるポップス系の曲づくりに同じような曲先きよせん)という方法で作られていることが実に興味深いところです。

曲づくりの謝礼として、作曲の南には50円、作詞の鷗外には100円がそれぞれ支払われたといわれています。「横浜市歌」は飛鳥田一雄、細郷道一氏が市長時代に子供のころから歌ったものだと言われて、さまざまなエピソードが残されています。

2003(平成15)年には横浜生れの歌手中村裕介さんが「横浜市歌～ブルースバージョン～YOKOHAMA CITY BLUES」を発表。2010(平成22)年には、音頭バージョンの「Bon Dance 横浜市歌・よこはまアラメヤ音頭」が発表されました。横浜スタジアムの横浜DeNAベイスターズの試合でも「横浜市歌」が使用されるなど、ずっと継承と進化を続けています。また、カラオケでも「横浜市歌」が配信されています。10月の磯子区政90周年では、磯子の街に横浜市歌が流れることでしょう。



区づくり推進 市議会議員会議

6月5日、磯子区役所において今年2回目の区役所幹部職員と磯子区選出市議会議員による区づくり推進会議が開かれ、29年度に磯子区が取り組んでいく様々な事業について意見交換を行いましたので報告いたします。

区政90周年記念事業 毎年恒例の「磯子まつり」を10月1日に設定し、今年は前日祭(9月30日)としてコンサート等を開催。また、1年を通じ区民の方々と周年事業を祝う。

商店街活性化 今年も商店街朝市を区役所駐車場にて開催(10月1日、11月3日、1月27日、3月10日)。各商店街の実情などを調査し、それぞれに対応した支援メニュー等を作成。

緑化への取組 全国都市緑化フェアの開催を契機とし、引き続き杉田臨海緑地や駅前プラントナー・花壇等の維持管理に努める。

支えあい事業 新杉田行政サービスコーナー跡地に、地域で困難を抱える子供たちや高齢者など幅広い世代が集える場を確保、7月20日に「新杉田交流スペース」として開所。

超高齢社会に向けて 団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題に対応するため、地域包括ケアシステムの構築を進める(普及啓発リーフレットを発行)。

生活困窮者対策 生活困窮者の社会参加を促進するためのモデル事業を実施(様々なボランティア活動への誘導等)。その他、区役所職員や支援者向けの研修。また、中学生を対象に進学に向けた個別学習支援(磯子・洋光台各地域ケアプラザ、杉田劇場)を実施。

子育て応援事業 妊娠前から乳幼児期にわたり切れ目のない支援を行うため、子育て支援拠点や子育て支援団体との連携を進める。また、子供との効果的なコミュニケーションやしつけについてのアドバイスをリーフレットにまとめ配布し、虐待防止につなげる。

区民のチカラ発揮・活用 地域課題の解決に取り組む活動グループや団体を支援。担い手育成や、地域活動への参加に向けたきつかけづくりに取り組む。自治会町内会を含む複数の団体が連携した多世代交流や青少年育成などの取組に対し支援を行う。

災害対応 自治会町内会長等に、災害時の緊急情報を一斉に電話連絡できる緊急時情報システムを試行的に運用し、地域との効果的な受伝達体制を確立。

空き家対策 これまでの取組を踏まえ、空き家活用他地区への展開に向けた調査・検討を行う。管理不全な空き家について、所有者へ適切な指導を実施し、区局が連携して管理できるデータベースを構築。

磯子駅前再整備 超高齢社会の到来や歩行者の増加、自動車交通量の減少を踏まえ、磯子駅前広場のあり方を見直し、交通結節点の機能に加え、安全・安心でバリアフリーな広場、賑わいの創出や活性化に資する区間整備に向けた調査等を実施。